
スピン・オフ小説 あんたはすごい!

水本爽涼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スピン・オフ小説 あんたはすごい！

【Nコード】

N3051X

【作者名】

水本爽涼

【あらすじ】

時間研究所に登場した塩山満のスピン・オフ小説。

第19回

「どけりやいいじゃないですか。水晶玉なんて置く所は幾らでもあ
るでしょうよ」

「それには訳があんのよ、満君」

モップやポリバケツなどを片づけて出てきた早希ちゃんがそう云
う。ママとの話が聞こえていたのだろうが、耳敏い子だと思った。
それに、この際だから云わせて貰うが、二十そこいらの娘が四十半
ば過ぎの男を捕まえて、君呼ばわりするというのも如何なものか、
とも思える。しかし反面、そう呼ばれると若返って青年に戻った気
分がするから、まあ痛し痒し、ってところだろう。

「ほう、どんな訳？」

「初めから話さないと分かんないみたい、ママ」

「え〜と、その人のことは一昨日おととい、話したわよね。でね、その人が
昨日、閉店間ぎわに来られたと、…これも話したか。…それでさあ、
今、満君が座ってる右の席よ、確か。そこへお座りになってね、こ
の前と同じカクテルを注文したのよ。身だしなみもこの前と同じ背
広で紳士風。鞆たもとだつて同じ黒茶の奴」

「鞆の色まで、よく覚えてましたね」

「だつてさ、最近是不景気のせいなのかどうか知らないけど、客が
目減りしてさあ、あの日はその紳士だけだったし、普通のお客には
見えなかったから、注意してたしさあー」

私は、なるほど、そういうことか…と理解出来た。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3051x/>

スピン・オフ小説 あんたはすごい！

2011年12月9日01時11分発行